

26日考協第34号

2026年5月29日

文部科学大臣 松本 洋平 様  
中央教育審議会 会長 橋本 雅博 様

一般社団法人日本考古学協会 会長 石川 日出志  
一般社団法人日本人類学会 会長 海部 陽介  
日本旧石器学会 会長 堤 隆  
(公印省略)

## 小学校学習指導要領(社会科)の改訂に対する要望書の送付について

日本考古学協会、日本人類学会、日本旧石器学会は、歴史教育に各学会の研究成果が適切に活用されるよう社会科教科書、および学習指導要領や同解説の内容について調査・分析を行ってまいりました。

次期学習指導要領の改訂については、すでに、2025年6月11日付で『小学校における「人類の出現から旧石器時代」に関する歴史学習の必修化を求める声明』を送付いたしましたが、あらためて具体的な改善点について「小学校学習指導要領(社会科)の改訂に対する要望書」を提出いたします。

願意をお汲み取りいただき、ご高配賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 記

1. 小学校学習指導要領(社会科)の改訂に対する要望書

別添書類 一式

以上

2026年5月29日

文部科学大臣 松本 洋平 様  
中央教育審議会 会長 橋本 雅博 様

一般社団法人日本考古学協会 会長 石川 日出志  
一般社団法人日本人類学会 会長 海部 陽介  
日本旧石器学会 会長 堤 隆  
(公印省略)

### 小学校学習指導要領(社会科)の改訂に対する要望について

およそ 700 万年の長い歴史を持つ人類は、身体的・文化的な変容を遂げながら、さまざまな環境に適応し、今日に至る多様な地域文化と生活環境を築いてきました。現代社会は、気候変動(温暖化)、環境汚染等の環境問題、生態系の喪失、資源の枯渇、飢餓、貧困・格差問題等の危機に直面しています。これらの課題を的確に理解し、解決していくためには、人類の出現と進化、そして旧石器時代から始まる生活・文化の歴史をふりかえり、今後の人類の行方を見定めることが重要です。また、その学びは、先人の生きる力と知恵を理解する文理融合の視野を育み、次の中学校・高等学校での学びに繋がる基礎となるものです。

そして、歴史学習を含む社会科は、人間形成に大きく影響を与える教科です。健やかな人格が育まれる義務教育の段階で、より身近な地域に存在する歴史遺産を通じ、様々な角度から人とは何か、また、どうあるべきかを考えることは、国際理解教育にとってもきわめて学習効果が高い取り組みとなるでしょう。多様性やその歴史的な背景を理解し、互いを尊重する感性を育むことは、地球の未来を共に支え合う人材育成に繋がるからです。人類の出現と進化、そして旧石器時代から始まる歴史学習の意義は、ここにあります。

しかしながら、現在、小学校6年生が歴史の授業で使用しているすべての歴史教科書には、人類の出現から旧石器時代に関する記載は全くありません。これには、学習指導要領に人類の歴史のはじまりを学ぶ意義が明確に位置づけられていないという点が大きな理由として挙げられます。また、歴史学習で取り扱う時代については、1998(平成 10)年の学習指導要領改訂で「農耕の始まり」(弥生時代)からとされましたが、

2008(平成 20)年の改訂で、それ以前を指し示す「狩猟・採集」の文言が復活しました。しかし、同解説の例示では「貝塚や集落などの遺跡、土器などの遺物を取り上げて調べ、」と縄文時代以降に限定されていることもその要因となっています。

さらに、旧石器時代をふくむ身近な地域に残された遺跡・遺物に触れる体験的学習は、子どもたちの知的好奇心を刺激し、現在の生活につながるものとして歴史の理解を促し、先人に対する畏敬の念や生命の尊厳などを学ぶ上でも重要な意味をもちます。

そこで、私たちは小学校における「人類の出現から旧石器時代」に関する歴史学習の必修化を求めるため、以下の内容を小学校学習指導要領及び同解説に盛り込むことを強く要望します。

## 記

1. 人類の出現と進化や、旧石器時代の生活・文化の特徴について触れ、様々な環境に適応するとともに、今日に至る多様な地域文化と生活環境を築いてきた歴史を理解することによって、人類の繋がりや多様性を尊重する感性を育むこと。
2. 「優れた文化遺産」「代表的な文化遺産」に加えて、全国の子どもたちが等しく触れることのできる「身近な地域にある遺跡・文化財」についても取り扱うこと。
3. 上記の学習を明確に位置づけるため、別紙のとおり、現行学習指導要領及び同解説の修正を提言する。

## 小学校学習指導要領・解説(社会科)の修正案

## 【小学校学習指導要領 社会 第6学年】

※下線部を追加・修正。解説の当該箇所も同じに修正する。

## 1 目標 (3)・・・p58

(3) 社会的事象の背景を、人類の歴史として広く様々な角度から探究し、より良い社会を考える態度を養い、世界各地の文化と伝統を尊重するとともに、(後略)

## 2 内容 (2)・・・p58

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、アフリカに出現した現生人類の移住によって始まった旧石器時代からの日本列島の歴史の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産をはじめ、身近な地域にある各地の遺跡・文化財を理解すること。

※下記を(ア)として項目を追加し、内容を(ア)～(ス)とする。「内容の取扱い」における当該箇所も同じ様に修正する。

(ア) 人類の出現と進化に伴い、世界各地へと生活の範囲を広げていった人類が、様々な環境に適応した多様な地域文化を築いていったことを手掛かりに、現代人の繋がりや多様性を理解すること。

(イ) 狩猟・採集や…。※以下、(ス)までとする。

## 3 内容の取扱い (2)・・・p60

※内容 (2) の追加により、下線部を追加・修正する。

イ アの(ア)から~~(イ)~~(ス)までについては、例えば、国宝、重要文化財に指定されているものや、世界文化遺産に登録されているものなどとともに、身近な地域にある遺跡・文化財を通して学習できるように配慮すること。

## 【小学校学習指導要領解説 社会編 第6学年】

## \*内容 (2) ア (ア)に関する解説・・・p110

※下線部を追加・修正する。学習指導要領 内容の冒頭に(ア)として一項目を追加したことにより、(ア)～(シ)の項目を順次送り、(ア)～(ス)までとする。

この内容は、「くに」としての我が国の歴史が形づくられるまでの学習で身に付ける事項を示している。ここでは、人類の出現と進化、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の四つの事象を取り上げる。…(略)…

人類の出現と進化については、アフリカで出現した人類が、進化の過程において、生活に必要とされる基本的な道具を生み出した旧石器時代から世界各地に生活の場を広げ、様々な環境に適応した多様な地域文化が築かれてきたことがわかることである。

狩猟・採集や農耕の生活については、生活の拠点となった集落の跡、生産活動の痕跡を示す石器づ

くりの跡や貝塚や水田跡貝塚や、集落跡などの遺跡、そして、石器や土器、などの遺物や、水田跡の遺跡や農具などの当時の遺物が残されていること、日本列島では長い期間、豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたこと、大陸から稲作が伝えられ農耕が始まると、人々は耕地の近くに定住しておらを作るようになったことなどが分かることである。…(中略)…

アの(→ス)は、技能に関わる事項である。

例えば、生活の拠点となった集落の跡、生産活動の痕跡を示す石器づくりの跡や貝塚や、集落跡などの遺跡、石器や土器などの遺物について、(後略)

## 学習指導要領・解説の修正による学習効果について

学習指導要領・同解説について、以上の修正をおこなうことで、小学校歴史教科書に人類の出現や進化と旧石器時代のことが記載され、歴史学習において等しく扱われることとなります。このことは、子どもたちの学びや成長に、次のような効果が期待できます。

まず、感受性豊かな小学校段階から、人類の歴史のはじまりを学ぶことで、世界各地で暮らす人々が国という枠組みを越えて同じ仲間であること、人類が身に付けてきた知恵を活かし様々な自然環境に適応する過程で、地域文化と生活環境の多様性が形成されてきたこと、そして、人類の進化や文化の発展は一方向に進むものではなく、その多様性が互いに無いものを補いあう集団や地域間の共生関係を生み出してきたことを理解することができます。

このことは、2006(平成18)年の改正教育基本法の教育の目標に追加された「生命や自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度」や「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度」を養うことに合致します。そして、学習指導要領社会科学学習の目標とされている、現代社会が抱える世界的規模の課題を解決していく際に必要な多様性への理解、人権や環境問題に対する意識の涵養等につながり、小学校6年生社会科の学習順序が政治の後に歴史、そして国際理解に変更になったことの効果を高めることにもなると考えます。また、中学校の歴史教科書では、すべての教科書に人類の出現と進化、旧石器時代に関する記載がみられます。しかし、中学校の学習指導要領では、小学校での学習を踏まえて効率的に取り組むことが基本とされており、この点からも小学校段階で人類の出現と進化、旧石器時代について学ぶことは必須と考えます。

次に、旧石器時代の遺跡は、日本列島全域に普遍的に存在し、全国の子どもたちが文字などの記録だけでは知ることのできない人々の生活や各地域の多様な歴史と文化をより具体的に学習する上で、欠くことのできない貴重な資料です。また、身近な地域に残された遺跡・遺物に触れる体験的学習は、子どもたちの知的好奇心を刺激し、現在の生活につながるものとして歴史の理解を促し、先人に対する畏敬の念や生命の尊厳などを学ぶ上でも重要な意味をもちます。このように、優れた・代表的な文化遺産だけではなく、各地の身近な地域にある遺跡や文化財を加えることについては、「教育課程部会 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ」においても、考古学に対する高い評価とともに、学校教育と博物館、専門家との連携の充実を図る必要があると議論されています(第2回議事録)。

「博物館等の施設や地域の素材・人材を活用した授業の実施状況」の調査結果では、学年が上がるにつれて活用率が減少しており、小学校6年生では50%を下回っている状況です(第5回配付資料)。従来の学習指導要領でも、博物館や資料館等の活用を図ること、専門家や関係機関との連携が配慮事項として示されていますが、調査結果は活用や連携が進んでいないことを示しています。博物館、資料館等の活用は人類史をテーマとした探究学習を進めるための教材を得る場として重要であり、成果を生み出せることが期待できます。より活用や連携を図るためにも、各地域の遺跡や文化財に関心を持ち、理解することを明記すべきです。

最後に、人類史の視点を歴史学習の初めに位置づけることは、単に新しい知識を追加するという事ではありません。様々な角度から人とは何かを考え、その営みの歴史から人とはどうあるべきかという原点に立ち返ることは、自己の存在理由に悩んだ時の支えとなり、また、社会や現代人の多様性に対する誤解からくる偏見、不寛容や争いといった様々な課題と向き合う力や判断力、そして思考力や表現力の育成に大きな影響を及ぼします。さらに人類の進化を通じて理科など他教科で扱う履修内容と対応して学習することで、歴史の深い理解に繋がります。人類の出現と進化、そして旧石器時代から始まる歴史学習の意義は、ここにあります。

以上のことから、私たちは小学校における「人類の出現から旧石器時代」に関する歴史学習の必修化を求め、小学校学習指導要領及び同解説(社会・第6学年)の適正な修正を強く求めます。